

令和2年度

保育所の自己評価

ファミリー保育園

新しい保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図る為、保育の計画の展開や保育士の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、ファミリー保育園では毎年自己評価を実施しております。評価結果を踏まえ、今後も保育内容等の充実を図ってまいります。

【評価について】

評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。

A…理想的な状況にある状態（100点～80点）

B…通常行われている状態（79点～60点）

C…一部改善、あるべき姿に達していない状態（59点以下）

自己評価表

※2月記入

評価の視点

子どもの活動や状態に対する評価と、保育士自身の保育や援助、環境設定等に対する評価を総合的に判断して、各月及び年間の評価を行う。詳しくは以下を参照とする

評価の視点参照	評価	自己評価
設定したねらいの保育がクラスの達成を確認できたか	B	年間計画に沿って、職員間で話し合い、連携をとっていった。状況に応じて柔軟に対応し保育を行うことができた。
子どもの状況に応じて柔軟な保育ができていたか確認する	A	保育設定を行う上で、個人差に配慮したり、状況に応じて、職員間で話し合い柔軟に対応していった。
発達過程に沿った、また発達段階に必要な経験をさせられたか	A	発達段階を理解し、食事や身の周りの事を自分でできるよう支援していった。
子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程への配慮は適切だったか	B	やってみたい！挑戦したい！と思えるような声かけや環境設定を行い自ら意欲的に取り組めるようにしていきたい。
環境構成は適切だったか	A	感染対策として、消毒、換気、清掃を常に心がけ、環境を整えていった。
養護的な配慮がなされていたか	A	子ども達が落ち着いて安定した中で過ごし、じっくり遊びに取り組めるようにしていった
保育者間で必要な連携は取れていたか	B	複数担任で連携不足を感じた。小さなことでも情報を共有し、積極的に連携をとっていきよう努める。
保護者との連絡は十分に取れていたか	B	保護者からの連絡は常に職員間で共有し、何かあれば園長、主任に相談するなどし、丁寧に対応していく。
必要な記録の確認は適切である。	A	必要に応じて記録をする習慣をつけていきよう心がけた。職員勉強会などで共有していった。
社会人のとしての専門家として自ら資質の向上に努め結果を出すことができたか	B	コロナ禍の中研修が減ったため十分に研修を行うことが出来なかった。職員勉強会では質を高められるような内容の研修を行っていききたい。
前期の反省、評価は生かされていたか	B	家庭との連携を十分に図り保育に反映していく。子ども達の最善の利益を考え共に協力しあえるよう努める。

総 評

- ・ 新型コロナウイルス感染防止の為、対策を講じながら行事を実施していった。又、「新しい生活習慣」をみんなで考え見直し、振り返りながら浸透させてきた。コロナ対策では保護者の理解を得る為、具体的な説明をしていき、たくさんの協力をして頂いた。一つひとつの行事を行う意味も改めて考える機会になった。
- ・ 複数担任で保育をする上で、子ども達、保護者のことなど小さな事でも話し合い、共通理解をもって保育していけるようにしていった。
- ・ 子どもの育ちや環境をふまえた援助をするように努めた保育者が肯定的な言葉かけを心がけることで子ども達も肯定的な言葉や意欲的に活動に取り組めるように努めていった。